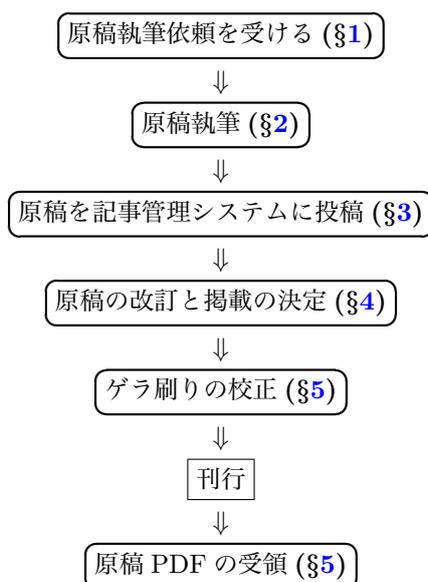


日本応用数学会誌「応用数理」執筆要項

「応用数理」編集部 oyosuri@ml.jsiam.org*

(2015年6月改訂)

原稿執筆から刊行までの流れは下記の図の通りです。この文書では、執筆の要項について順に説明します。原稿を執筆される前に、ご確認ください。



1 原稿執筆依頼を受ける

冊子の『応用数理』の記事は、すべて招待記事からなっています。執筆依頼はメールでなされます。^{*1}執筆依頼のメールには下記の情報が含まれています。

記事番号：英数字6個
記事種別：*****
標題（案）：仮の題目が記載されています
概要（依頼文）：依頼文が記載されています
執筆者：*****
字数制限：n 字数以内
執筆期限：201X/YY/ZZ

また、下記の情報も含まれています。ログインIDとパスワードは、原稿・修正稿の投稿の際に必要なになりますので、忘れないようにして下さい。

* 原稿執筆・投稿に関することは、御気軽に、このメールアドレスに問い合わせ下さい。応用数学会事務局にお問い合わせを頂いても、お答えはできません。

*¹ 執筆依頼を発信する際には、編集部では、編集委員の一人が著者の皆さんに原稿執筆の内諾を得ていると理解しています。もし、そのような約束をした覚えがない、という場合には、『応用数理』編集部 oyosuri@ml.jsiam.org まで至急にお知らせください。

原稿は『応用数理』記事管理システムからご送付ください。

URL: <http://jom.jsiam.org/bjsiam>

ログイン ID: *****

パスワード: *****

なお、記事の種類には以下のものがあります。

■ 冊子『応用数理』

巻頭言 1 頁目に掲載されるエッセイ。原則として理事会のメンバーに依頼。

論文 専門的な内容を、専門外の会員にもわかるように、解説を書いていただく。あるテーマに基づいた論文を集中的に掲載する「特集」もある。

インダストリアルマテリアルズ 企業の研究開発や応用研究の紹介をしていただく。

フォーラム 企画記事。ほかに年会総合講演記事（1～2号）やフェロー特集（3号）。

フォーラム「応用数理の遊歩道」 4号にわたって連載するエッセイ。

チュートリアル 応用数理の基礎的なテーマを4号にわたる連載でわかりやすく解説していただく。

2 原稿執筆

- 執筆依頼メールに記載された**字数制限を守り**、原稿を作成して頂きます。ただし、各記事は次のようなページ数におさめることを想定していますので、参考にして下さい。

記事の種類	段数	ページ数	文字数
巻頭言	1 段組	1 ページ	1,000
論文	2 段組	8 ページ [†]	約 12,000
論文 (特集)	2 段組	6 ページ [†]	約 10,000
チュートリアル (連載解説)	2 段組	6 ページ [†]	約 10,000
インダストリアルマテリアルズ	2 段組	4 ページ [†]	約 5,000
応用数理の遊歩道 (フォーラム)	2 段組	4 ページ [†]	約 5,000
フォーラム (年会総合講演など)	2 段組	4 ページ [†]	約 5,000
学会記事	2 段組	(改頁無)	3,000
編集後記	2 段組	(改頁無)	800

[†] 後で説明する L^AT_EX スタイルファイル利用時は、文字数よりも、このページ数制限を優先して下さい。なお、論文の場合は、本文だけではなく**著者紹介や、英文アブストラクトも含めたページ数**が記されています。

- 『応用数理』に掲載される記事の原稿は、原則としてワープロ (L^AT_EX, Word, テキストデータなど) で作成して下さい。もし、**ワープロの利用が難しく、手書き原稿しか用意できない**場合には、編集部 oyosuri@ml.jsiam.org まで、お問合わせ下さい。個別に対応させていただきます。なお、執筆依頼メールに

『応用数理』原稿用 TeX スタイルファイル, サンプルファイル

URL: http://www.jsiam.org/publication/bjsiam-stylefiles_20140106_v087c.zip

パスワード: *****

とあるように、「原稿用 L^AT_EX スタイルファイル, サンプルファイル」の暗号化 zip ファイルが用意されていますので、ご利用ください。**WORD のテンプレートは用意しておりません**。WORD で原稿を

作成される場合は、字数にのみ注意して下さい。

- 頂いた原稿は、印刷会社が専用ソフトウェアを用いて、すべて一から組版を行います。したがって、 \LaTeX スタイルファイルを使用しても、生成された PDF ファイルなどが、そのまま印刷に用いられるわけではありません。
- 原稿の体裁については、『応用数理』のバックナンバーを参考にして下さい。以下の URL から無料で閲覧できます*2：

国立情報学研究所 CiNii http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN10288886_jp.html

特に下記のことにご注意下さい。

- － **用語、文字、字体について**：常用漢字、現代かなづかいを用い、平易な口語（である調）で記述して下さい。数学記号は明瞭に表記し、式番号は行の最右端に置いて下さい。
- － **地名、人名について**：地名、人名は可能な限り原綴で表記して下さい。初出の人名は姓名ともに表記して下さい。ただし英文の場合、名はイニシャルだけでも構いません。
- － **図（写真を含む）、表について**：原稿はすべて白黒で印刷されます。図、写真および表も白黒で印刷されます。
- － **脚注について**：脚注の多用や長文の脚注は避けて下さい。
- － **文献表について**：バックナンバーを参考にして下さい。より詳しくは、[付録 A](#) を参照して下さい。

3 原稿を記事管理システムに投稿

完成した原稿は、**締切り日までに**、

学会誌記事管理システム <http://jom.jsiam.org/bjsiam>

を通じて投稿して下さい。ログイン ID とパスワードは、執筆依頼メールに記されています。

なお、投稿の際には、

- 原稿の電子ファイル（ \LaTeX の場合は、 \LaTeX ソースファイル・PDF ファイル、WORD の場合は WORD ファイル）、
- 図や写真が使用されている場合はその電子ファイル（JPEG, EPS, PDF, PowerPoint など）

をご用意ください。なお、これらのファイルが複数ある場合には、**ZIP 形式にまとめて一つのファイル**をご用意ください。

また、下記の情報が必要になりますので、あらかじめご準備ください（直接入力して頂きます）。

- 和文タイトルと英文タイトル
- 著者**全員**の氏名（とその英語表記）および所属。
- 責任著者の連絡先（住所、電話番号。必ず全てご記入ください）、
- **論文のみ**次の情報もご用意ください：
 - － 英文アブストラクト（150 語程度）
 - － キーワード（日本語と英語で、各 5 個づつまで）
 - － **全ての著者**について、生年、最終修了大学・大学院・学部名（これらの情報は著者紹介に使います）
 - － **全ての著者**について、詳細な経歴、現在の所属、研究テーマ、関心のあるテーマ、受賞、著作、所属学会などを 200 字から 300 字くらいでまとめたもの
 - － **全ての著者**について、顔写真の電子ファイル（JPEG, EPS, PDF など）。

*2 ただし、2016 年 4 月から J-Stage <https://www.jstage.jst.go.jp/> に移行予定です。

さらに、記事管理システムを通じた投稿の際に

著作権譲渡同意書への（承諾の意味の）チェック

もして頂きます（これが頂けないと、記事が掲載できません）。

原稿が、無事、原稿管理システムに投稿されたならば、**著者宛に受領通知が発信**されます。もし、投稿したにも関わらず、受領通知が届かない場合には、編集部 oyosuri@ml.jsiam.org まで、お問い合わせください。

4 原稿の改訂と掲載の決定

原稿を頂いた後、査読（論文のみ）および校閲を行います。これらがの手續きが終わると、結果を著者にメールでお知らせします。

「**原稿改訂依頼**」が届いた場合には、指示に従って改訂し、原稿管理システムに再投稿して下さい。再度、査読（論文のみ）および校閲を行います。

査読（論文のみ）および校閲で問題が無ければ、原稿は、編集委員会での審議に進み、そこで掲載が正式に決定し、著者には「**掲載決定のお知らせ**」が発信されます。編集委員会は年に8回（4, 6, 7, 9, 10, 12, 1, 3月）なので、投稿のタイミングによっては、原稿に問題がなくても、掲載決定までに、2～3ヶ月かかってしまうことがあります。申し訳ありませんが、御容赦ください。

5 ゲラ刷りの校正

掲載号出版の2ヶ月～1ヶ月半くらい前に、出版社からゲラ刷りが送られて来ますので、期限までに校正を行い、出版社に返送して下さい（返信用封筒が同封されます）。少しの字句の訂正は許容範囲ですが、大幅な文章の変更は差し控えて下さい。図表の差し替えが必要な場合は出版社へ連絡して下さい。

6 原稿 PDF の受領

原稿の別刷りは進呈しません。代わりに、掲載号が出版された後、原稿のPDF ファイルを進呈いたします。

付録 A 文献表について

1. 文献表は原則として著者のアルファベット順としそれに番号をふる。

(例) [1] Burgers, J. M.,

[2] Courant, R.,

[3] 近藤次郎,

2. 本文中で文献を引用するときは、その箇所に文献番号を示す。

(例) ... であるとされている [10].

3. 誌名などは可能な限り省略しないで正式名称を書く。

4. 文献の記述形式は以下のようにする。

(a) 連名の著者によるものは、原則として全員の姓名を記す。英文表記の場合には、最後の著者の前に and を置く。

(b) 英文表記の場合の capitalization については、以下の例にならう。

(c) 雑誌論文の場合は著者、標題、掲載雑誌、巻、号 [省略可] (年)、ページの順に記す。

(例)

[1] Courant, R., Friedrichs, K. O., and Lewy, H., On the partial difference equations of mathematical physics, IBM Journal, 11 (1967), 215–234, English translation of the original work: Über die partiellen Differenzgleichungen der mathematischen Physik, Mathematische Annalen, 100 (1928),

32–74.

[2] Hodgkin, A. L., and Huxley, A. F., A quantitative description of membrane current and its application to conduction and excitation in nerve, *Journal of Physiology*, 117 (1952), 500–544.

[3] Lax, P. D., The flowering of applied mathematics in America, *SIAM Review*, 31 (1989), 533–541.

5. 会議録論文または論文集の場合は著者，標題，会議録名または論文集名（編者名など），発行所，発行地，年，ページの順に記す。

(例)

[1] Burgers, J. M., A mathematical model illustrating the theory of turbulence, *Advances in Applied Mechanics* (edited by von Mises, R., and von Kármán, Th.), Academic Press, New York, 1948, 171–199.

[2] 小柳義夫，スーパーコンピューティング，先端技術と数理科学の対話（森正武・藤井宏編，数学セミナー増刊），日本評論社，東京，1990，121–135.

6. 著書・編書の場合には，著者・編者，書名，[巻]，発行所，発行地，年の順に記す。

(例)

[1] 近藤次郎，数学モデル—現象の数式化—，丸善，東京，1976.

[2] Volterra, V., *Leçons sur la Théorie Mathématique de la Lutte pour la Vie*, Gauthier-Villars, Paris, 1931.

[3] 山口昌哉，カオスとフラクタル，講談社，東京，1986.

— 以上 —